環境放射線の評価結果をお知らせします。

平成23年度報
平成23年4月～平成24年3月

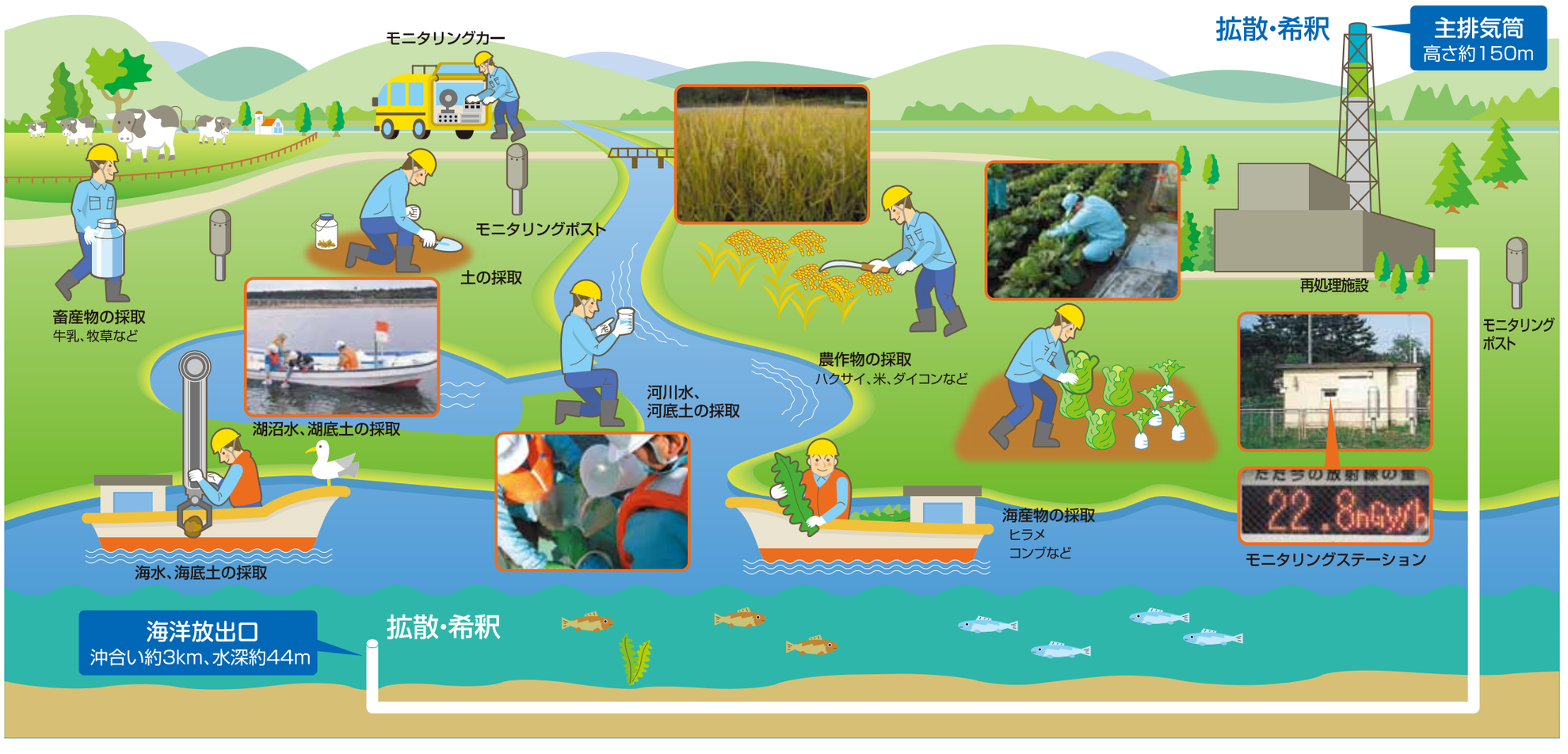
特集 食品中の放射性物質についてお知らせします。

裏面をご覧ください▶▶▶

原子燃料サイクル施設の周辺環境における放射線の状況を把握するため、当社では、モニタリングステーション等による空間放射線量率の監視を連続的に行うとともに、さまざまな試料を採取し、分析・測定を行っています。

平成23年4月から平成24年3月の結果は、青森県の調査結果とあわせて、先般、開催された放射線の専門家や地元自治体・農漁協など各種団体の関係者等で構成される「青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議（評価委員会:7月24日開催、監視委員会:8月28日開催）」において審議され、**「概ねこれまでと同じ水準であった」**と評価・確認されました。下段に、青森県と当社のモニタリング結果をあわせて表示します。

なお、平成23年4月から平成24年3月までに、再処理施設から放出された放射性物質による周辺住民への影響を試算した結果は、年間0.000039ミリシーベルトであり、法令で定められている一般公衆の線量限度（年間1ミリシーベルト）を十分下回っていました。



当社ホームページのご紹介

当社ホームページでは、施設周辺の放射線測定のリアルタイムデータなどの情報をお知らせしています。

http://www.jnfl.co.jp

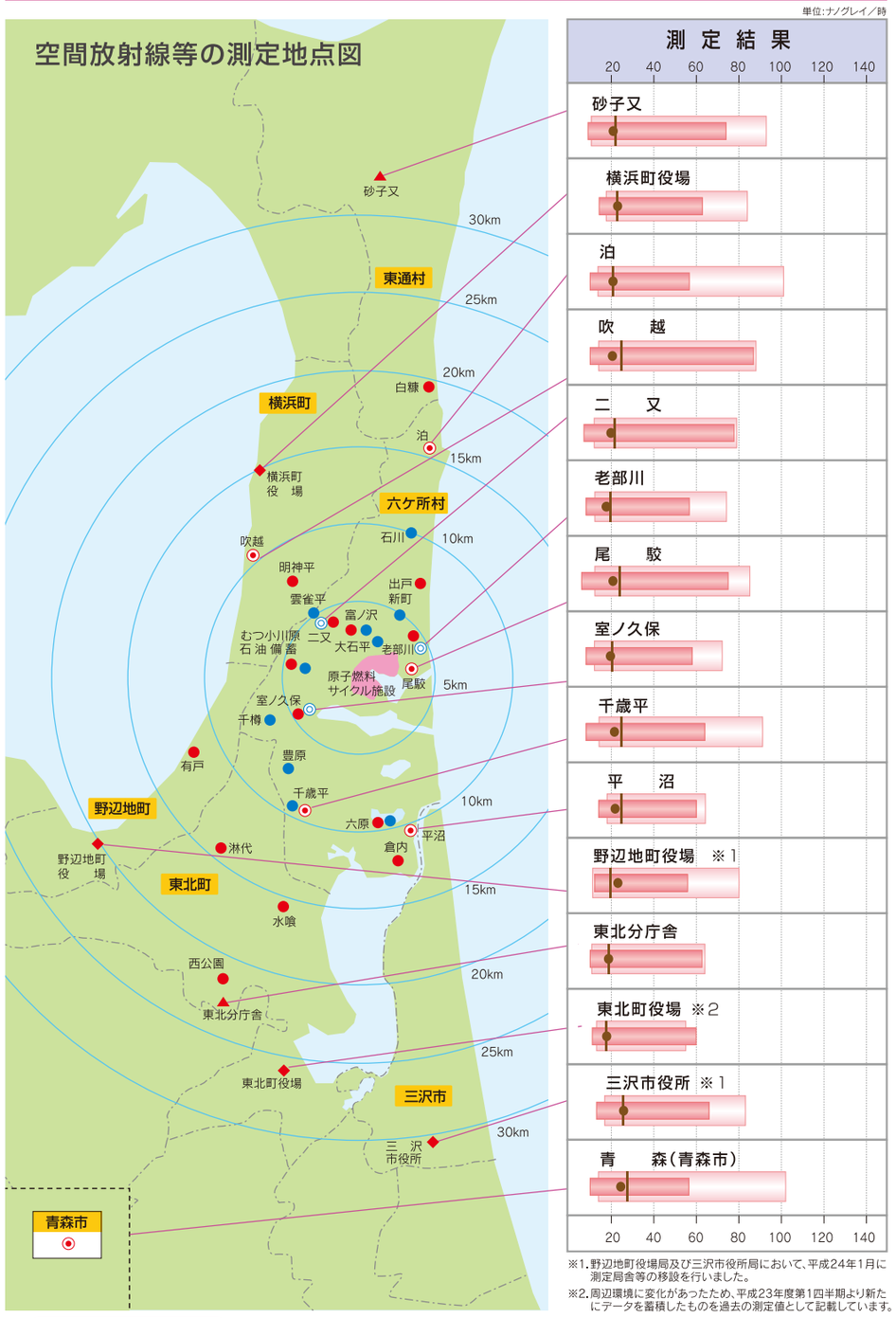
●放射線モニタリングのページ

●空間放射線量の監視ページ

日本原燃
2012年9月号

発行元:日本原燃株式会社 広報・地域交流室
TEL:0175(71)2002

空間放射線等のモニタリング結果

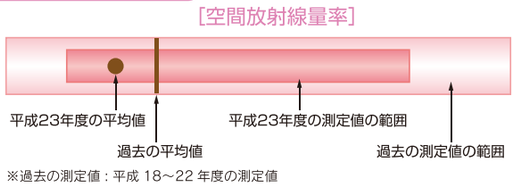


単位:ナノグレイ／時

※1.野辺地町役場局及び三沢市役所局において、平成24年1月に測定局舎等の移設を行いました。
※2.周辺環境に変化があったため、平成23年度第1四半期より新たにデータを蓄積したものを過去の測定値として記載しています。

グラフの見方

［空間放射線量率］

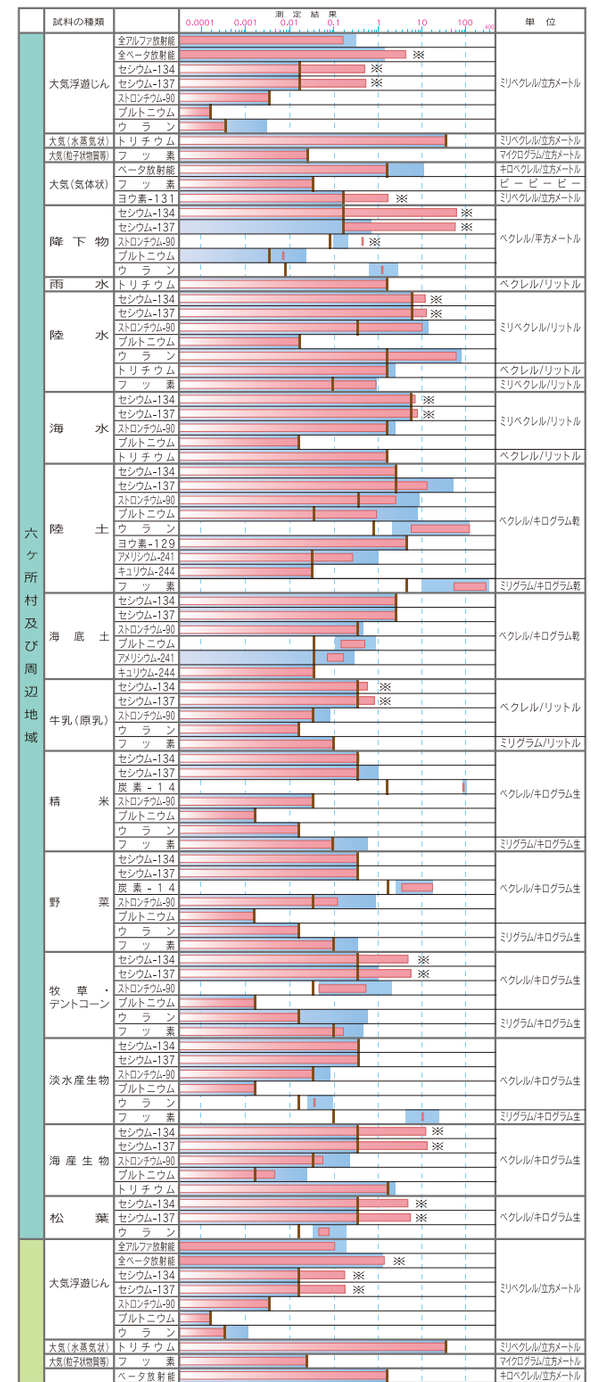


※過去の測定値：平成 18～22 年度の測定値

凡例

区分	県	事業者
モニタリングステーション及び積算線量計	◉	◎
モニタリングポスト及び積算線量計	◆	
モニタリングポスト	▲	
積算線量計	●	●

環境試料中の放射能等のモニタリング結果



※平成23年3月に発生した東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる

凡例

試料の種類		採取時期	記号
陸上試料	大気浮遊じん	4、7、10、1月	
	大気（粒子状物質等）	4、7、10、1月	
	大気（水蒸気状）	毎月	
	大気（気体状）	連続	
	降下物・雨水	毎月	
	陸水 河川水	7、10月	
	陸水 湖沼水	4、7、10、12月	
	陸水 水道水	4、7、10、1月	
	陸水 井戸水		
	陸土 河底土	7、10月	
	陸土 湖底土	10月	
	陸土 表土	7月	
	牛乳（原乳）	4、7、10、1月	

試料の種類		採取時期	記号
陸上試料	精米	収穫期1回	
	野菜（ハクサイ、ダイコン、ナガイモ、キャベツ、パレイショ）		
	牧草	5、8月	
	デントコーン	収穫期1回	
	淡水産生物（ワカサギ、シジミ）	漁期1回	
	松葉	4、10月	

試料の種類			採取時期	記号
海洋試料	海水		4、7、10、1月	
	海底土		10月	
	海産生物	ヒラメ、アワビ、コンブ、イカ、ヒラツメガニ、ウニ、ホタテ	漁期1回	
		ムラサキイガイ、チガイソ	4、10月	

◎参考:「モニタリングつうしんあおもり」No. 85　平成23年度報